〔明良帶錄世職〕御目見醫師

醫師は職業なれば、其術に堪へたる、町醫師、陪臣醫師、新規御目見被仰付らる、是より御番醫に昇るもあり、いづれも學術修業次第也、

〔天明記二〕一近年不學麤術之醫師共、賄賂金差出し願ひ候へば、容易に御目見被仰付候事、是等之儀は、重々不屆に候、第一司命之職に候へば、能々御撰可有之筈之處、其所へ心付不申、甚以不實之至候、就中其方及嘲哢候事、是等は上之御格祿を、任權威奪候に當り候事、

〔明良帶錄世職〕小普請醫師

是も醫術修業之道にして、小普請組之支配也、屋敷幷町方の病人有時、藥を與ふれば、療治帳とて、病人之名何之誰、家來何之誰、何病、主方何方、町方なれば、何町家主誰店何之誰と認め、支配江出す、此帳面支配へ出す格也、此場修業中減祿被仰付、醫術上達之上にて、選擧之節元高に被成下、寛政御改正の節被仰出、

〔浚明院殿御實紀附錄三〕朝ごとに上直の侍醫御脈をうかゞふ時には、世の中流行の病もなしや、なにぞあやしき病などにて、人のくるしむことはなしや、又は大名旗本等のうち、大病のものあらずやと、御尋あることつねのことなり、もし世上流行の病あり、又は大病旗本のうちに大病人ありなどゝ聞えあぐれば、御容を改め玉ひ、愁玉ふ御氣色あらはれ玉ひ、醫療のことゞも御たづねあり、又おだやかにして、流行病もなく、衆人平和なるよし申上れば、御機嫌いとよくおはしましけるとぞ、

〔京都御役所向大概覺書六〕醫師儒者之事、附鷹峯御藥園幷御藥種獻上之事、〇中略

京都ニ屋敷有之御醫師

一五百石　烏丸通一條下ル町　在京　施藥院